

U.S. Indicators

発表日: 2024年4月11日(木)

米国 CPIコアの上昇モメンタム強まる(24年3月CPI)

～CPIコアは前年比で下げ渋り～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

消費者物価

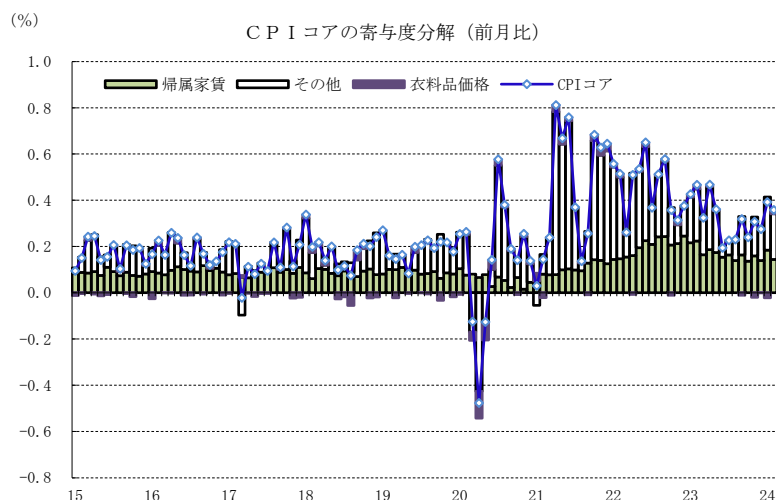
	総合		コア		エネルギー	食品	住宅	アパレル	運輸	医療	財 コア	サービス コア
	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比								
23/08	+0.512	(+3.7)	+0.230	(+4.3)	+4.4	+0.2	+0.3	+0.2	+2.0	+0.1	▲0.2	+0.4
23/09	+0.360	(+3.7)	+0.319	(+4.1)	+1.2	+0.2	+0.5	▲0.3	+0.3	+0.1	▲0.2	+0.5
23/10	+0.079	(+3.2)	+0.240	(+4.0)	▲2.1	+0.3	+0.3	+0.0	▲0.7	+0.2	▲0.0	+0.3
23/11	+0.160	(+3.1)	+0.308	(+4.0)	▲1.6	+0.2	+0.4	▲0.6	▲0.2	+0.5	▲0.2	+0.5
23/12	+0.233	(+3.4)	+0.275	(+3.9)	▲0.2	+0.2	+0.3	▲0.0	+0.1	+0.4	▲0.1	+0.4
24/01	+0.305	(+3.1)	+0.392	(+3.9)	▲0.9	+0.4	+0.6	▲0.7	▲0.6	+0.5	▲0.3	+0.7
24/02	+0.442	(+3.2)	+0.358	(+3.8)	+2.3	+0.0	+0.4	+0.6	+1.4	▲0.0	+0.1	+0.5
24/03	+0.378	(+3.5)	+0.359	(+3.8)	+1.1	+0.1	+0.4	+0.7	+0.8	+0.5	▲0.2	+0.5

(注) 括弧内は前年同月比

24年3月の消費者物価(総合)は、前月比+0.378%(前月同+0.442%)と低下したが、市場予想中央値+0.3%(筆者予想同+0.3%)を上回った。ガソリンなどエネルギーが前月比+1.1%(同+2.3%)と低下した一方、外食主導で食品が前月比+0.1%(前月同0.0%)と上昇したほか、エネルギー・食品を除く消費者物価(CPIコア)が同+0.359%(同+0.358%)と小幅上昇し、市場予想中央値の同+0.3%(筆者予想同+0.3%)を上回った。

CPIコアでは、財コアが前月比▲0.2%(前月同+0.1%)と下落した一方、サービスコアが前月比+0.52%(同+0.46%)と上昇した。財コアでは、衣料品、医療用品、アルコール飲料が上昇した。一方、中古車、情報機器、教材が下落に転じたほか、新車、余暇商品が下落幅を拡大、家庭用耐久品・消耗品、自動車部品が下落を続けた。また、その他財は低下した。

サービスコアでは、レンタカー、航空運賃が下落に転じたほか、賃料、ホテル、上下水道・ゴミ収集サービス、余暇サービス、インターネットサービスが低下した。また、専門医療は横ばいにとどまった。一方、病院・関連サービス、その他個人向けサービスが上昇に転じたうえ、医療保険、自動車メンテナンス・修理、自動車保険が上昇した。帰属家賃は前月と同率の高い伸びとなった。

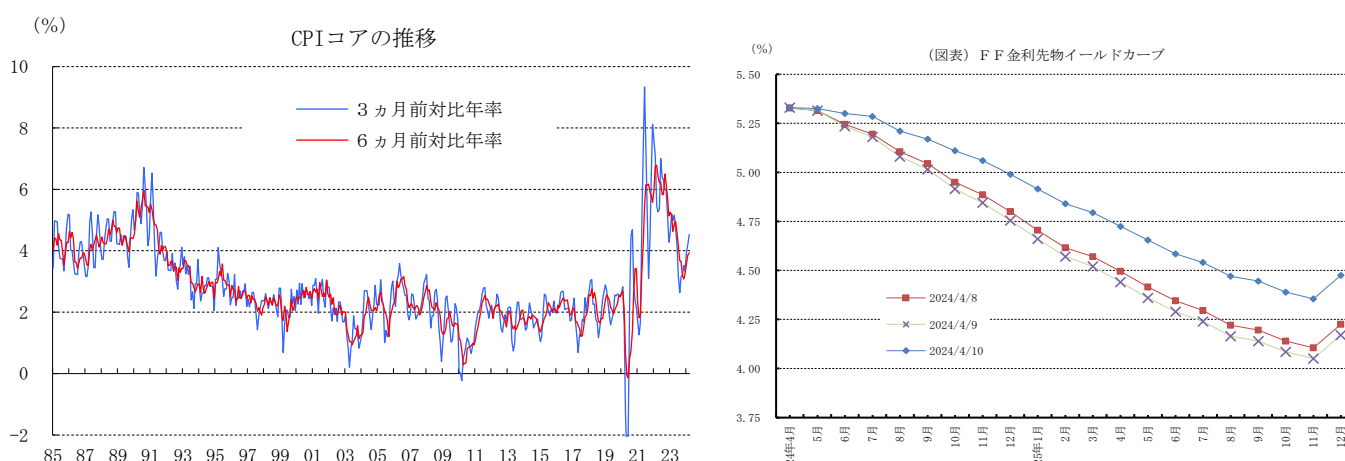


CPIコアの上昇モメンタムをみると、3ヵ月前対比年率で+4.5%（前月+4.2%）と高い伸びに上昇し、短期的なインフレ圧力が強まった。また、6ヵ月前対比年率で+3.94%（前月+3.85%）と上昇しており、中期的なインフレ圧力も再び強まった。さらに、CPIコアは前年比で+3.8%と高い伸び率で下げ渋っており、インフレが2%のインフレ目標に向けて低下を続けるとFRBが確信できる状況に至っていないことが確認された。

予想を上回った3月CPI統計を受け、FF先物が示す5月FOMCでの据え置きの可能性は97.1%と高いまま。6月FOMCでは、据え置きが79.0%（前日42.6%）に上昇し、25bpの引き下げが20.6%（同56.1%）に低下した。7月FOMCでは、据え置きが53.7%（前日25.0%）に上昇し、25bpの引き下げが39.3%（同50.5%）に低下した。9月FOMCでは、据え置きが29.4%（前日8.5%）、25bpの引き下げが45.9%（同33.7%）に上昇し、現在の政策金利から50bp低い水準への引き下げが19.6%（同41.5%）に低下した。

FRBの利下げが後ずれするとの見方を受け、2、10年国債利回りは、大幅に上昇し、株価は下落した。ドルは主要通貨に対して強含んだ。

市場では、3月のCPI統計の上振れを受け、6月利下げの見方を修正する動きが増えた。ただし、6月FOMCまでに、4、5月分のCPI統計、雇用統計、景況感調査など多くの経済統計が公表されるため、市場の見方は変化し易い状況が続こう。

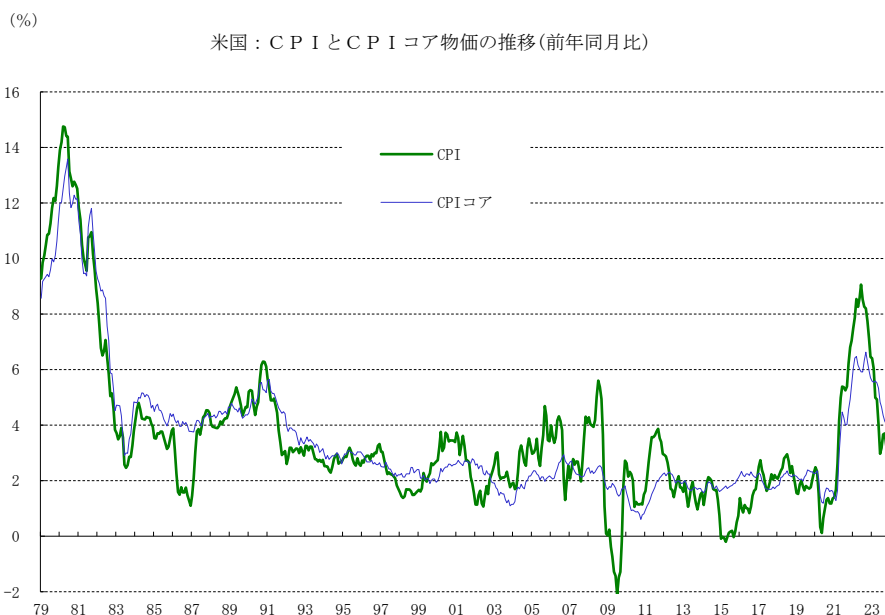


前年同月比では、総合が+3.5%（前月+3.2%）と上昇し、市場予想中央値+3.4%（筆者予想+3.4%）を上回った。食品が+2.2%（同+2.2%）と変わらずとなった一方、エネルギーが+2.1%（同▲1.9%）と上昇に転じたほか、CPIコアが+3.80%（同+3.75%）と上昇し市場予想中央値の+3.7%（筆者予想+3.7%）を上回った。財コアがサプライチェーンの改善、ドル高を背景に▲0.7%（前月▲0.3%）と下落幅を拡大した一方、サービスコアが+5.4%（同+5.2%）と上昇した。

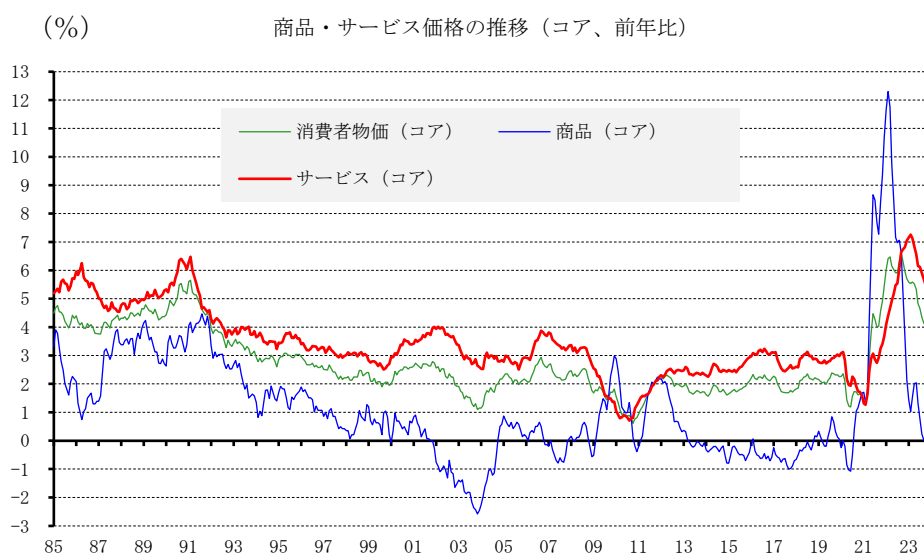
財コアでは、衣料品が上昇した一方、家庭用耐久品・消耗品、新車、中古車、自動車部品、教科書、情報機器が下落したほか、医薬品など医療用品、娯楽用品等が低下した。

サービスコアでは、ホテル、医療保険、レンタカー、航空運賃、携帯が下落したほか、賃貸料、帰属家賃が高い伸びながら低下した。専門医療サービスが低下した。一方、病院・関連サービス、自動

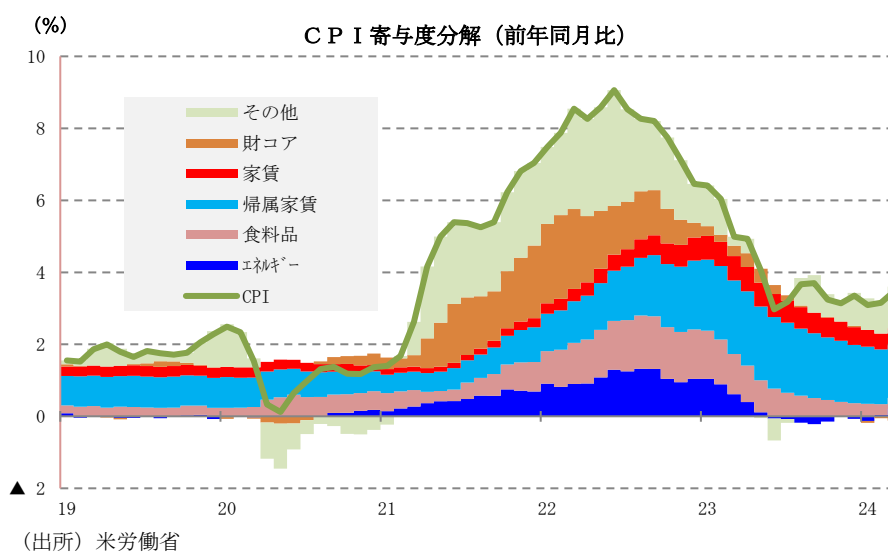
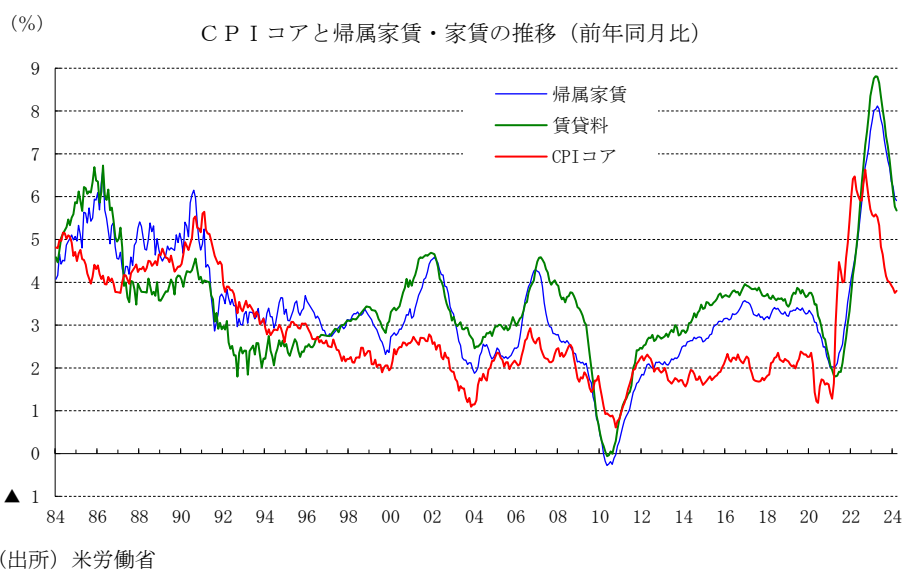
車保険、金融を含むその他個人サービスが上昇した。堅調な需要や人手不足による賃金上昇の影響を受けやすい部門での上昇や、住宅関連の高い上昇を背景に、サービスコアは前年比+5.4%と高い伸びを続けており、CPIコアの鈍い低下の主因となっている。

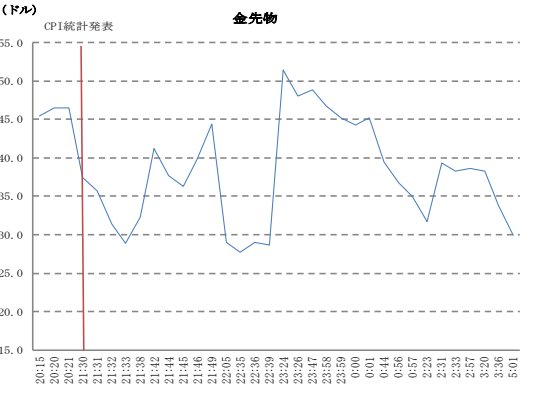
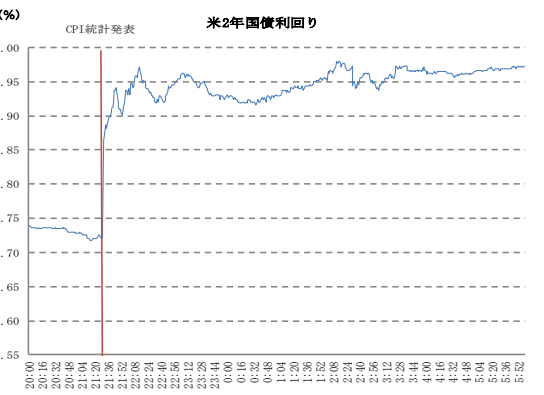
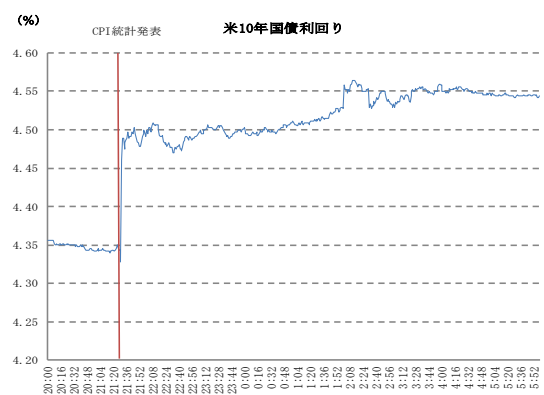
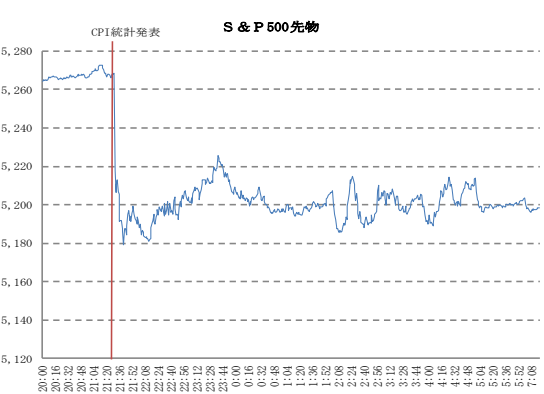
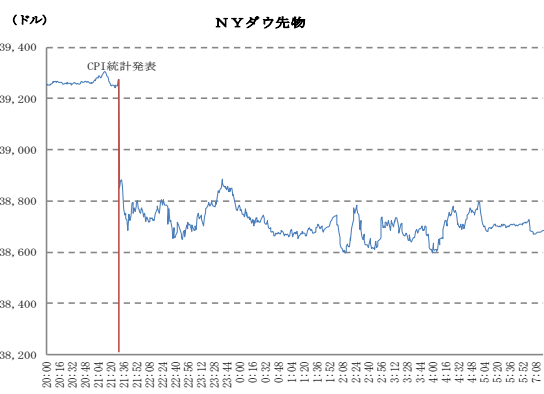
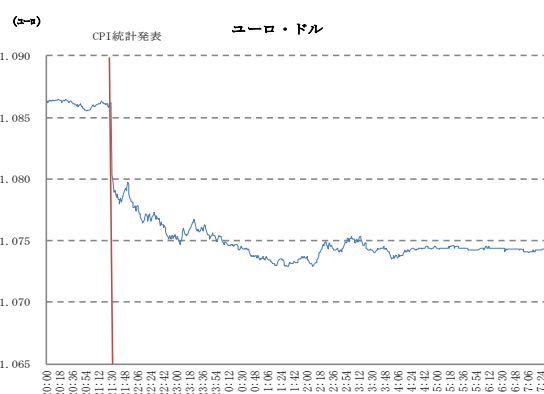
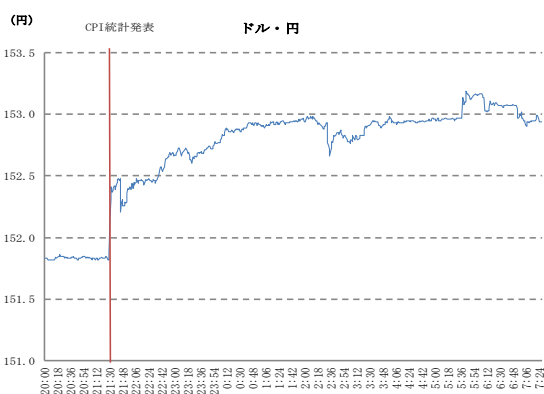


(出所) 米労働省



(出所) 米労働省





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

